

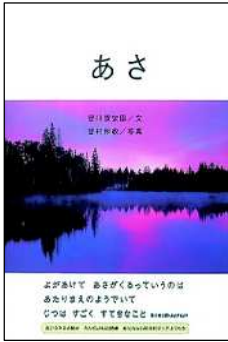
読書の旅へでかけよう!

学校司書おすすめの本

テーマ **本の窓からみえるもの**



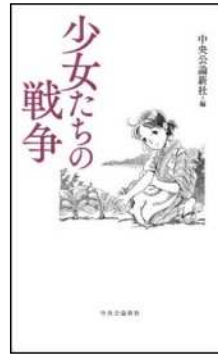
 <p>『くまのプーさん ささやかだけど大切にすること』 キャサリン・ハブカ/文 マイク・ウォール/イラスト 海老根祐子/訳 講談社 159</p> <p>クリストファー・ロビンがなくなった宝物をさがしに出かけたくまのプーさんたち。仲間たちとの日常の中にたくさんの大切なことがあると気付かせてくれる。</p>	 <p>『どこへ行っても恥をかかない 世界の「常識」図鑑』 御手洗昭治ほか/著 総合法令出版 361</p> <p>日本人の「常識」は別の国では「非常識」なのかもしれない。観光大国ニッポンに世界中の人がやってくる今、他国の文化や常識を知ることの一つのマナーであり、大切なコミュニケーションツールにもなる。</p>
 <p>『武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方』 宮田律/著 平凡社 333</p> <p>クリスチャンである中村哲医師がアフガニスタンの平和のために手にしたのは武器ではない。人々と共に、砂漠に用水路を引き、清潔な水と農地と仕事とモスク(祈りと礼拝を行う建物)をつくることだった。</p>	 <p>『消えたレッサーパンダを追え ~警視庁「生きもの係」事件簿』 たけたにちほみ/文 学研プラス 317</p> <p>動物園からレッサーパンダが盗まれた! 生き物に関する事件を扱う警視庁「生きもの係」が出勤する。実際の事件から見えてくるのは、珍しい生き物に対する人間の無知と欲が、生態系を壊しかねないということ。</p>
 <p>『SDGs 時代の食べ方 世界が飢えるのはなぜ?』 ちくま Q ブックス 井出留美/著 筑摩書房 611</p> <p>地球上には世界中の人々が食べるのに十分な量の食料があるはずなのに、なぜ飢餓が問題となっているのだろう。食品ロスを減らすために今、私たちができることは?</p>	 <p>『解きたくなる数学』 佐藤雅彦ほか/著 岩波書店 410</p> <p>この本は数学の本です。美味しそうなチョコレートやチーズが出てきますが、数学の本です。数学が好きな人も苦手な人も一目見れば解かずにはいられない! 新しい刺激を受けること間違いなし。</p>
 <p>『なんで信長はお城を建てたの? 「お城」のはじまりを探す旅』 畑中英二/著 新泉社 521</p> <p>中1のホタカは、お父さんの影響でお城にはちょっと詳しい。安土城、姫路城、甲賀の城に行き、歴史を追体験。防御・攻撃の仕掛けや心理戦に触れ、ますますお城好きに。</p>	 <p>『中高生のスポーツハローワーク スポーツを仕事にしたい君へ』 中高生のスポーツハローワーク編集部 学研プラス 780</p> <p>スポーツに関わる仕事はたくさんある。競技者としてはもちろん、スポーツトレーナー・管理栄養士・スポーツ用品開発者、他。現場で働いている人を知り、自分の未来を切り開こう。</p>



『あさ／朝』
谷川俊太郎/文
吉村和敏/写真
アリス館 911

この本の窓からみえるのは、言葉と写真が描きだす美しい朝。左から開くと写真絵本、右から開くと詩集という構成がとても新鮮だ。

さあ、新しい今日へと踏みだそう。



『少女たちの戦争』
中央公論新社/編
中央公論新社 916

黒柳徹子さんほか著名な27名。戦時中、それぞれの空の下、なにを見て思い暮らしていたのだろうか。

当時3歳から19歳までの少女たちのエッセイ集。



『窓』
小手鞠るい/作
小学館 913

窓香の元に、昨年亡くなった母から美しいノートが届く。そこには母の目指していた夢と葛藤、娘への愛があふれていた。「窓を開ければたくさんの世界を見ることができる……。」母の思いが窓香の支えとなっていく。



『90秒の別世界
短歌のとなりの物語』

千葉聡/著
立東舎 913

見開き2ページ分のショートショートが100編。90秒で読める各話の最後には現代短歌が添えられている。

短歌から読むか、話から読むか。どこから読むかは読者次第！



『ギソク陸上部』
山下白/原案 舟崎泉美/著
学研プラス 913

なるせはたと成瀬颯斗は、陸上に打ち込む中学生。ある日、足に痛みを感じ「ユーイング肉腫」と診断される。右足切断を選び、義足をつけて学校に戻った颯斗だったが、陸上部の仲間たちにも壁を感じてしまい……。



『小さな手 ホラー短編集 4』
金原瑞人/編訳 佐竹美保/絵
岩波書店 933

英語圏の恐怖小説8編を収録。

古典的傑作「猿の手」、芥川龍之介も大ファンだったピアスの「月明かりの道」、現在も活躍中コウヴィルの「首を脇に抱えて」、ノーベル文学賞受賞者キプリングの「子どもたち」など、さまざまな怪奇話に背筋がゾクリ。



『ルーミーとオリーブの特別な10か月』

ジョン・パワー/作
杉田七重/訳
小学館 933

父を亡くし異母姉と暮らし始めたオリーブはパピーウォーカーとして子犬を預かることになる。「大きく暮らす」を合言葉に頑張る姉妹とルーミーとの日々はかけがえのないものだった。



『わたしは夢を見つづける』
ジャクリン・ウッドソン/作
さくまゆみこ/訳
小学館 933

アメリカ児童文学者の自伝的物語。彼女は、意外にも読み書きが苦手だった！散文詩形式で、子供時代・夢・信念を語る。人種問題も理解できる。巻末のジャクリンや家族の写真も必見。



『ぼくたちのスープ運動』
ベン・デイヴィス/著
渋谷弘子/訳
評論社 933

病気の治療を終え、新しい学校生活をスタートさせたジョーダン。母親が持たせてくれたスープをホームレスの人にあげたことから、家族に、学校の仲間、そして自分に変化が起きていく。



『プロジェクト・ヘイル・メアリー
上・下』

アンディ・ウィアー/著
小野田和子/訳
早川書房 933

グレースが目覚めたのは宇宙船の中。太陽エネルギーが宇宙生物に食べられて光が弱まり、地球は氷河期突入寸前となる。その謎を解くための計画に参加しているらしいが、彼には記憶がなかった。